

2015年

編集後記

今年度も皆様のご協力を賜り、「環境制御」第37号を発刊することができましたことに感謝いたします。本誌では、6月20日に開催した環境管理センター公開講演会「地球温暖化と気候変動が関わるリスク」で講演された先生方の内容を総説としてご紹介させて頂きました。そのなかではこれから日本で起こるであろう種々の現象について言及されています。集中豪雨の増加、土砂災害に対する危険性、感染症の増加、など我々が子どもの頃には想像しなかったことが現実起ころうとしています。さて、環境管理センターで仕事をする我々が関わる対象は、土・水・大気という環境資源であり、その維持管理・修復は社会のインフラと密接な関係があります。そのため、学生たち、親御さん、また高校の先生方には、就職に強い専門分野という認識があるようで、ありがたいと思います。ただ他方では、特徴がわかりにくく新鮮味が無くつまらないとも受け取られがちです。ただこれからは従来の知識では対応できない事象が発生する可能性があり、以下で示すようにその課題解決をはかれる専門技術について、次世代を担う若者にぜひ関心を持ってもらいたいと思っています。

よく学生達には分野の特徴や課題を説明するときに次のように話しています。まず、我々が目指す環境学とは、悠久の流れの中で何千年という時間をかけて変化する地球環境を直接対象としているわけではなく、人間が生きている時間スケールにおける環境保全・修復をさしている、と。近年は非常に短い時間で環境が激変してしまうことも多く、こういった変化は我々の生活環境を脅かすため、影響軽減のための技術開発など新たな取り組みを積極的にする必要があります。また、動植物ほど環境変動に弱い傾向にあります。中・高で習った生態系ピラミッドは、その底辺が短くなれば当然三角形そのものも小さくなるため、我々の生活が脅かされます。そしてこのピラミッドの縮小が短期間に起こる可能性があり、その予測や修復技術は重要です。つまり、社会インフラや公衆衛生が発達した先進国は現状維持でもう安泰というわけではなく、違った視点からのチャレンジな課題をたくさん持っています。この先、土・水・大気・植物を通じた物質循環とその環境を予測・保全・修復する科学技術は、若者が生き抜いていくために必要な学問であると認識しており、その活動にぜひ関心を持ってもらいたいと考えています。

最後に、「環境制御」では自然科学、社会科学の両方を含め、環境に関わる幅広い内容の解説、学術論文、技術報告を掲載いたします。皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

環境管理センター 森 也寸志